

認定中心市街地活性化基本計画の最終フォローアップに関する報告

平成25年6月
越前市（福井県）

全体総括

計画期間；平成19年11月～平成25年3月（5年5月）

1. 計画期間終了後の市街地の状況（概況）

平成19年11月に認定を受けてから今回計画が終了する5年5ヶ月の間、目標とする定住人口の増加と交流人口を拡大する取組みを継続的に進めてきた。

計画終了後の中心市街地の状況についてであるが、居住人口は世代別に見ると、年少人口が落ち幅が激しく、生産年齢人口も大きく落ち込んでいる。しかしながら高齢人口は微増となっており、全体的には自然減が大きく、平成19年比で12.1%減となった。とはいえ、民間優良共同住宅整備促進事業や高齢者向け優良賃貸住宅供給促進事業などの施策により、10%強の人口増があり、施策がなかった場合の推定人口と比べれば、全体では一定の抑制効果があったことがうかがえる。

当初計画目標値の想定増加戸数309戸と増加人口680人の達成に向けての取組みの結果は、平成24年度末において、戸数が313戸で達成率101%、人口が582人で達成率85%となり、今後より一層の取組みの強化を図る必要がある。

定住人口増加に向けた取組みでは、民間優良賃貸共同住宅供給促進事業、まちなか住宅用地購入促進事業、高齢者向け優良賃貸住宅供給促進事業により、居住促進に一定の成果は出ているが、高齢化率が38.8%と高く自然減の増加や若年世代の転出が多いという既存の流れを止められず、依然として人口減少に歯止めがかかっていない状況である。

交流人口増加に向けた取組みは、蔵の辻での壱の市、参の市等の賑わいイベント支援、魅力ある個店づくりや販売促進事業への取組み、たけふ菊人形開催中のまちなか散策ラリーなどにより、観光客を中心市街地に呼び込むことで、一定の集客効果を上げることができた。

まちなか観光促進では、まちなか無料駐車場を社会実験的に設置し、バスツアーの誘致により、蔵の辻や京町、卍が辻周辺の寺社、風情ある街並みを散策する観光客が増加した。

まちなか集客を狙ったイベントとして、蔵の辻における壱の市、参の市は、賑わいの柱として定着し、一定の集客効果を見込めた。また、ボルガライスや駅前中華そばといった食の魅力を発信し、現在注目をあびている。今後は周辺商店街や地域住民との連携を強化していきながら、さらなる集客を求めていく予定である。

2. 計画した事業は予定どおり進捗・完了したか。また、中心市街地の活性化は図られたか（個別指標毎ではなく中心市街地の状況を総合的に判断）

【進捗・完了状況】

概ね順調に進捗・完了した

順調に進捗したとはいえない

【活性化状況】

かなり活性化が図られた

若干の活性化が図られた

活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）

活性化に至らなかった（計画策定時より悪化）

【詳細を記載】

基本計画に位置付けられた51事業のうち、48事業は遅滞なく実施でき、全体的に概ね順調に進捗、完了したといえる。まちなか居住については、団地整備や用地購入を図ってきたが、地主との権利関係が壁となり、なかなか思うように進んでいないのが現状であるが、住宅用地等購入資金利子補給事業やまちなか住宅団地整備費補助事業などの居住施策により、人口減少の歯止め効果があった。まちなか賑わいについては、蔵の辻における壱の市、参の市のイベントにより、交流人口の増加に寄与しおり、若干の中心市街地の活性化が図られたと考えられる。

3. 活性化が図られた要因(越前市としての見解)

中心市街地活性化は、簡単な解決策がなく、地道な取り組みによってしか成し得ないものであるが、行政だけでなく、まちづくりセンターがNPO、商業者と協働しながら、住宅用地等購入資金利子補給事業やまちなか住宅団地整備費補助事業の実施、蔵の辻における壱の市、参の市のイベント等、様々な施策を市民の目線で実践したことにより、居住人口の減少の抑制、賑わいの創出を図ることができた。

4. 中心市街地活性化協議会として、計画期間中の取組みをふり返ってみて(協議会としての意見)

【活性化状況】

かなり活性化が図られた

若干の活性化が図られた

活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）

活性化に至らなかった（計画策定時より悪化）

【詳細を記載】

目玉となるハード整備事業が無くソフト事業に特化したこともあり大きな活性化には至らなかったが休日の歩行者数はまちなかイベントの効果もあり、目標値を上回る効果がみられた。

協議会の部会であるまちなか賑わい創出部会では、まちなかの賑わいを推進する団体を集めて相互の情報交換や連携に向けた機運が高まりつつある。今後はまちなか賑わい協働推進部会とまちなか居住推進部会で意見を出し合いながら、市民と行政が協働体制で中心市街地の活性化に臨む予定である。

5. 市民からの評価、市民意識の変化

かなり活性化が図られた

若干の活性化が図られた

活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）

活性化に至らなかった（計画策定時より悪化）

【詳細を記載】

越前市中心市街地活性化 検証アンケート調査結果

平成 23 年 11 月 17 日～12 月 4 日 越前市都市計画課調査 市内 10 箇所

回答件数 319 件 回答率 68.6%

区分	分析結果	今後の対策案
活性化 評価	4 年前に比べて訪れる回数が増えた 増加 23%、減少 14%で訪れる回数が増加傾向 散歩散策の来街増加 習い事、公共交通、通院の来街減少	まちなかへ訪れやすい環境整備
	4 年前に比べて活性化進んでいるが満足していない まちなか居住者から、更なる活性化を望む声多い	事業の認知度を高める P R 強化
	まちなか居住促進に関心低い 景観、観光、賑わいの現在の満足度高い 交通アクセス、居住の満足度低い 交通アクセス、賑わい、景観の将来の重要度高い 観光、居住の重要度低い	まちなか居住促進の重要性 P R 強化 交通アクセスの対策検討
まちな か居住 の推進	まちなか居住者の居住満足度高く、6 割が住み続けたい 特に中高年世代から評価高い 区域外からは評価低い	まちなか居住者の流出を防ぐ支援策の検討 区域外住民に対するまちなか居住の良さを P R 定住化促進 P T 提言を踏まえた支援制度の検討
	駐車場がないと、まちなかで生活できない まちなかに住みたくない人の 4 割が駐車場が確保できない 道路狭い、買物不便、敷地・間取り狭いなどまちなかよりも、郊外の自然環境豊かな場所を希望する意見あり。	駐車場確保できる宅地の流動化 空き地の利活用促進 車、駐車場の共同利用検討 道路等の住環境整備
まちな かへの 来街目 的、頻度	まちなかへの目的最多は買物 4 割、飲食、医療機関、仕事、散歩散策が 2 割ずつ まちなかの業務機能が高い 散歩散策するニーズがある	魅力ある店舗誘致、買物の利便性向上対策
	5 割が週 1 回以上まちなかへ来る 週 3 回以上訪れる 35%、週 1～2 回 14% 約半数がまちなかを訪れる	まちなかへの来街頻度が高さを活かした対策検討

	<p>まちなかを訪れない理由最多「行く用事がない」</p> <p>訪れない人の5割が「行く用事なし」 「娯楽施設少ない」「買いたい商品ない」「行きたい飲食店ない」「駐車場不便」「行きたいイベントない」が3割ずつ 大型店の郊外出店で、まちなかの優位性が低下 まちなかは業務機能が集積しているが、長時間滞在できる場所が無い</p>	郊外にない集客施設の検討
まちなかへの来街傾向	<p>30～40代の女性がまちなかへ来る</p> <p>学生、独身時期は福井市へ流れるが、既婚者は仕事、子育てで、まちなかへの来街度が高い。 まちなかに商業、金融機関、医療機関等多く、女性の雇用受け皿が多いことも影響。 10～20代女性は、福井市へ流れる 仁愛大学生にその傾向顕著</p>	女性をターゲットにした対策検討 ・習い事の集客あり、文化教室、美容、健康、体力づくり施設など
	<p>若年・中年男性はまちなかへ来ない</p> <p>20～40代の男性が訪れない 男性は市内大型店での買物を好み、雇用受け皿の製造業が郊外に多い影響もあり、市外へも流れる</p>	若年・中年男性をターゲットにした対策検討
	<p>団塊・高齢世代がまちなかへ来る</p> <p>男女共に50代以降の団塊・高齢世代が多く訪れる 男女共に買物、飲食、通院、散歩散策多い</p>	団塊・高齢世代をターゲットにした対策検討
	<p>まちなかの滞在時間は3時間以内多い</p> <p>6割が3時間以内（仕事以外）で訪れる まちなかに長時間いられない 消費需要が増えない 地域経済が活性化しない</p>	市民が長く滞在できる娯楽・健康施設の充実
まちなかへの移動手段	<p>市内から6割が自家用車でまちなかへ来る</p> <p>市内まちなか以外から6割が自家用車 自転車2割</p>	短時間利用駐車場の整備
	<p>まちなか居住者は自転車、徒歩で移動する</p> <p>まちなか居住者の移動方法は、自家用車と自転車が3割ずつ、徒歩2割 健康志向・環境保全目的で、10代と50代以</p>	徒歩、自転車の環境整備 ・歩道のバリアフリー化 ・自転車専用レーン、駐輪場 ・生活道路の速度制限（ゾーン30）

	降高齢者の自転車利用多い 徒歩は50代以降高齢者多い	
自由意見	魅力ある店舗、飲食店少ない コンビニ、喫茶店、衣料・雑貨ブランド店 駅前通りに活気ない JR 駅南の跨線歩道橋（市道）のバリアフリー化 堀川踏切、錦・万代地下道利用しにくい 夜間、街灯少ない箇所あり危険 観光、イベントだけでは集客弱い 娯楽施設の充実（入浴施設、映画館） 短時間利用できる駐車場の整備 公共交通の利便性向上	各課題の対策検討

6. 今後の取組

第1期計画による掲げた住宅用地等購入資金利子補給事業やまちなか住宅団地整備費補助事業の実施、蔵の辻における壱の市、参の市のイベント等、様々な取り組みにより、居住人口は減少の抑制、賑わいは歩行者数の増加を図ることができた。第1期計画に引き続き、平成25年4月から5年間の第2期計画を独自計画として策定し、引き続き中心市街地の活性化の取り組みを継続していく。第2期計画では、集客の核となる大きなハード整備はないが、新たに地域住民の参画推進を目標に加えて、第1期での基盤を活かした活性化の継続・発展を目指していく。

(参考)

各目標の達成状況

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値		達成状況
				(数値)	(年月)	
住みよく多様な住まい方ができる中心市街地	居住人口	6,320人	6,450人	5,554人	H25年4月	C
多様な主体の活動と交流による“にぎわう”中心市街地	休日の歩行者数	994人	1,300人	1,480人	H24年度	A

注) 達成状況欄 (注: 小文字の a、b、c は下線を引いて下さい)

A (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。さらに、最新の実績でも目標値を超えることができた。)

a (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。一方、最新の実績では目標値を超えることができた。)

B (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。)

b (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。)

C (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

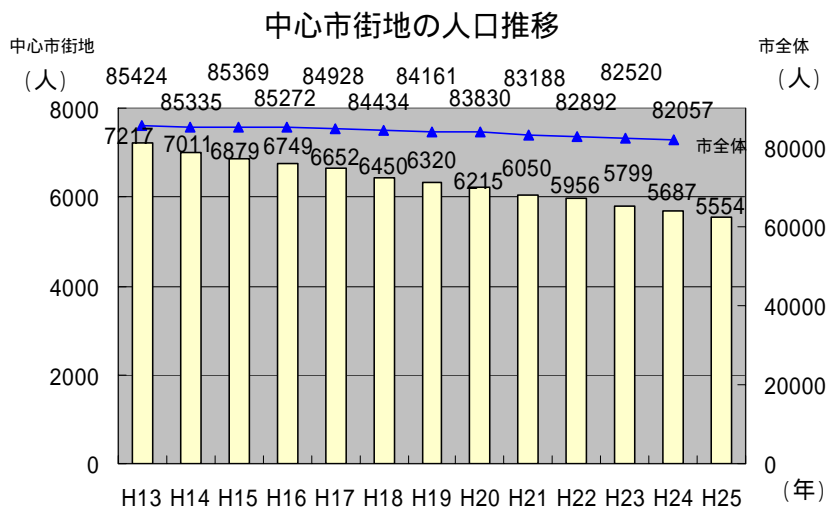
c (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

個別目標

目標「居住人口の増加」

「居住人口」 目標設定の考え方基本計画 P45～P49 参照

1. 目標達成状況の総括



年	(人)
H19	6,320 (基準年値)
H20	6,215
H21	6,050
H22	5,956
H23	5,799
H24	5,687
H25	5,554
H25	6,450 (目標値)

調査方法；中心市街地地域での住民基本台帳登録人口

調査月；各年 4 月 1 日時点の調査

調査主体；越前市

調査対象；中心市街地居住者

【総括】

中心市街地の居住人口は、民間優良共同住宅整備促進事業、高齢者向け優良賃貸住宅供給促進事業、住宅用地等購入資金利子補給事業やまちなか住宅団地整備費補助事業の実施により、582人の人口増加があった。施策実施により、一定の抑制効果があったが、施策がなかった場合、推定1,348人の減少となり、全体的に施策効果を超える人口減少が続いている状況で、目標達成には至らなかった。

2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

・民間優良共同住宅整備促進事業（越前市）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(地域住宅計画に基づく事業) 平成19年度から平成24年度
事業開始・完了時期	平成19年度から平成24年度
事業概要	民間優良共同住宅の整備を支援する。
目標値・最新値	目標値 から の事業の合計 140戸 最新値 から の事業の合計 212戸のうち、82戸
達成状況	達成
達成した理由	若年層世帯の親との別居によるワンルーム需要が多いことによる。
計画終了後の状況（事業効果）	82戸のうち、66戸がワンルームで単身の若年世帯の増加に寄与している。
民間優良共同住宅	事業の促進のため、大手デベロッパーに説明会など働きかけを行い、新た

宅整備促進事業の今後について	な事業者を掘り起こしながら、世帯向け住宅の供給を促進して定住化をはかり、継続していく。
----------------	---

・高齢者向け優良賃貸住宅供給促進事業（越前市）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(地域住宅計画に基づく事業) 平成19年度から平成24年度
事業開始・完了時期	平成19年度から平成24年度
事業概要	高齢者向け優良賃貸住宅の整備と入居者家賃を支援する。
目標値・最新値	目標値 から の事業の合計 140戸 最新値 から の事業の合計 212戸のうち、130戸
達成状況	達成
達成した理由	まちなかの高齢化率が高く、特に子ども達が独立した夫婦世帯の需要が多いことによる。
計画終了後の状況（事業効果）	高齢者の快適な居住環境づくりに寄与し、他市と比較しても充足した整備状況。
高齢者向け優良賃貸住宅供給促進事業の今後について	一定程度充足されたため、新規整備については見極めている状況。国費支援による「サービス付き高齢者向け住宅制度」については供給を促進する。

・特定優良賃貸住宅供給促進事業（越前市）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(地域住宅計画に基づく事業) 平成19年度から平成24年度
事業開始・完了時期	平成19年度から平成24年度
事業概要	特定優良賃貸住宅の整備を支援する。
目標値・最新値	目標値 から の事業の合計 140戸 最新値 から の事業の合計 212戸のうち、0戸
達成状況	から の事業の合計では達成だが、実績なし
達成した(出来なかった)理由	家賃設定が中堅所得者層向け住宅であるため、需要が少ないことによる。
計画終了後の状況（事業効果）	実績なしのため状況変化なし。
特定優良賃貸住宅供給促進事業の今後について	需要が少ないことが課題であり、需要の多い若年層世帯向けの施策に取り組む必要があり、終了。

・町屋風共同住宅整備促進事業（越前市）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(地域住宅計画に基づく事業) 平成19年度から平成24年度
事業開始・完了	平成19年度から平成24年度

時期	
事業概要	景観計画重点区域において町屋風共同住宅の整備を支援する。
目標値・最新値	目標値 から の事業の合計 140戸 最新値 から の事業の合計 212戸のうち、0戸
達成状況	から の事業の合計では達成だが、実績なし
達成した(出来なかった)理由	まちなかにおいて、駐車場スペースを確保した十分な共同住宅を建設できる土地が少ないことによる。
計画終了後の状況(事業効果)	実績なしのため状況変化なし。
町屋風共同住宅整備促進事業の今後について	モデル住宅の建設などで需要の喚起を促す必要があり、終了。

・住宅用地等購入資金利子補給事業(越前市)

支援措置名及び支援期間	越前市補助金 平成19年度から平成24年度
事業開始・完了時期	平成19年度から平成24年度
事業概要	個人が土地を購入し住宅を建設した場合に、支払利息の一部を支援する。
目標値・最新値	目標値 から の事業の合計 75戸 最新値 から の事業の合計 8戸のうち、6戸
達成状況	未達成
達成した(出来なかった)理由	高齢者の需要は少なく、主に中堅世帯が対象だが、車社会の利便性により郊外に需要が多い。
計画終了後の状況(事業効果)	一部空き地が埋まり、戸建住宅の整備促進に寄与した。
住宅用地等購入資金利子補給事業の今後について	戸建住宅支援制度としてPRに努め、土地購入要件を撤廃し、まちなか住宅取得支援事業として継続。

・まちなか住宅団地整備費補助事業(越前市)

支援措置名及び支援期間	越前市補助金 平成19年度から平成24年度
事業開始・完了時期	平成19年度から平成24年度
事業概要	500㎡以上の一団の住宅団地の整備を支援する。
目標値・最新値	目標値 から の事業の合計 75戸 最新値 から の事業の合計 8戸のうち、2戸
達成状況	未達成

達成した(出来なかった)理由	空き地の供給量が少ない。
計画終了後の状況(事業効果)	一定規模の空き地を住宅団地化できた。
まちなか住宅団地整備費補助事業の今後について	宅建協会等との連携を強化しながら、地権者、事業者へ働きかけを行い、継続して実施。

・福井の伝統的民家普及促進事業(越前市)

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(地域住宅計画に基づく事業) 平成21年度から平成24年度
事業開始・完了時期	平成21年度から平成24年度
事業概要	福井の伝統的民家に認定された町屋、土蔵等の整備に対し支援する。
目標値・最新値	最新値3件
達成状況	未達成
達成した(出来なかった)理由	工事費が高み、補助限度額が100万円であるため、取り組む事業者が限定されている。
計画終了後の状況(事業効果)	風情ある街並み整備により、伝統的民家の保存改修を促進した。
福井の伝統的民家普及促進事業の今後について	継続して実施。

3.今後について

高齢化による自然減の傾向はこれからも続いていくように思われるが、転入による社会人口増を目指し、第2期計画のまちなか居住の推進の指標の中で、平成29年度までに380人の居住施策による人口増加の数値目標を定めて、継続的な取り組みを進めていく予定。

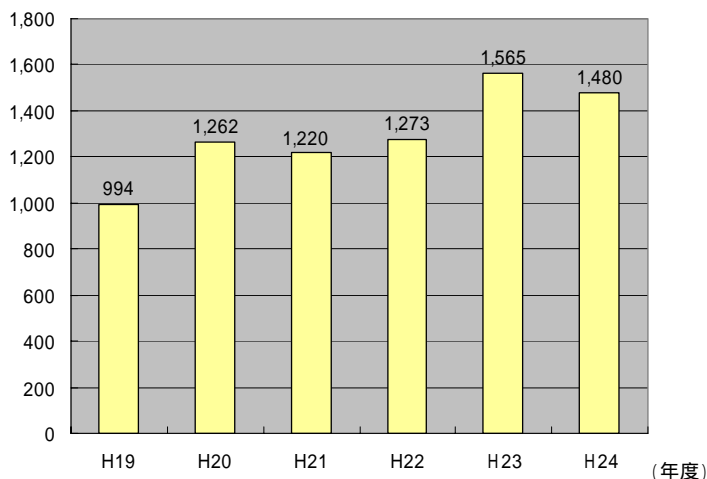
個別目標

目標「交流人口の増加」

「休日の歩行者数」 目標設定の考え方基本計画 P50～P60 参照

1. 目標達成状況の総括

(人) 休日の歩行者数の推移 (5地点・年3回平均値)



年	(人)
H19	994 (基準年値)
H20	1,262
H21	1,220
H22	1,273
H23	1,565
H24	1,480
H25	1,300 (目標)

調査方法；交通量調査（毎年度5月、8月、10月の3回実施）

調査月；毎年度5月、8月、10月実施

調査主体；越前市

調査対象；休日の歩行者数を5地点計測、合計し、年度平均値を算出。

【総括】

休日の歩行者数は、蔵の辻でのにぎわいイベント効果により、当初目標の30%増、1,300人を大きく上回る1,480人を達成したが、賑わいを継続していくためには、周辺の商業者や地域住民の参画を推進し、相互連携を図る対策が必要である。

2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

・ 蔵が辻・タンス町周辺地区回遊コース整備事業（越前市）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画) 平成20年度から平成24年度
事業開始・完了時期	平成20年度から平成24年度
事業概要	回遊コースの道路景観整備、ポケットパークを整備する。
目標値・最新値	目標値 事業 から だまちなか観光歩行者 100人増(調査地点2箇所) 最新値 事業 から だまちなか観光歩行者 194人増
達成状況	達成
達成した(できなかった)理由	だまちなか集客を求めて景観整備に理解が大きい。
計画終了後の状況	これまで整備してきた蔵の辻や京町散策ルートとつなぐことによって回遊の

況（事業効果）	魅力が向上した。
朶が辻・タンス町周辺地区回遊コース整備事業の今後について	整備が完了し、終了とするが、今後は花嫁行列などソフト面の活動に力を入れていく。

・街なみ景観整備助成事業（越前市）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画） 平成20年度から平成24年度
事業開始・完了時期	平成20年度から平成24年度
事業概要	景観計画重点区域において、住民が主導する景観協定区域内の住宅、店舗の改修、新築に係る工事費を支援する。
目標値・最新値	目標値 事業 から だまちなか観光歩行者 100 人増（調査地点 2 箇所） 最新値 事業 から だまちなか観光歩行者 194 人増
達成状況	達成
達成した（できなかった）理由	対象区域内の所有者の改修、工事の需要が大きい。
計画終了後の状況（事業効果）	魅力ある街並み景観形成に寄与した。
街なみ景観整備助成事業の今後について	だまちなか居住や回遊の魅力を引き続き高めるため、継続。

・時間制駐車場確保事業（越前市）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画） 平成20年度から平成24年度
事業開始・完了時期	平成20年度から平成24年度
事業概要	空き地を賃貸借で活用し、来街者用駐車場として開放する。
目標値・最新値	目標値 事業 から だまちなか観光歩行者 100 人増（調査地点 2 箇所） 最新値 事業 から だまちなか観光歩行者 194 人増
達成状況	達成
達成した（できなかった）理由	県外大手旅行代理店の格安ミステリーツアーの需要があり利用された。
計画終了後の状況（事業効果）	短時間利用可能な駐車場として機能し、市内外からの受入れ場所として活用できたことで、交流人口の増加に寄与した。
時間制駐車場確保事業の今後について	来街者が利用しやすい駐車場や観光バス駐車場を確保することはだまちなか回遊及びにぎわい創出に必要であるため、今後舗装工事を実施して継続した運用を図る。

・福井の歴史的建造物保存促進事業（越前市）

支援措置名及び 支援期間	社会資本整備総合交付金(地域住宅計画に基づく事業) 平成19年度から平成24年度
事業開始・完了 時期	平成18年度から平成24年度
事業概要	国登録文化財の保存改修を支援する。
目標値・最新値	目標値 事業 から dechana観光歩行者 100 人増(調査地点 2 箇所) 最新値 事業 から dechana観光歩行者 194 人増
達成状況	達成
達成した(出来 なかった)理由	登録有形文化財の歴史的価値の向上が図られた。
計画終了後の状 況(事業効果)	dechana回遊の回遊コースに定着した。
福井の歴史的建 造物保存促進事 業の今後につい て	補助申請があれば対応し、今後も継続。

・蔵の辻・商店街活性化事業(壱の市実行委員会、武生商店街連盟 外)

支援措置名及び 支援期間	福井県商店街魅力向上支援事業補助金、市民活動共同促進事業補助 金、越前市補助金(H22~) 平成19年度から平成24年度
事業開始・完了 時期	平成19年度から平成24年度
事業概要	蔵の辻にて「市」などのイベントを開催する。
目標値・最新値	目標値 事業 から dechana交流歩行者 200 人増(調査地点3箇所) 最新値 事業 から dechana観光歩行者 292 人増
達成状況	達成
達成した(出来 なかった)理由	周辺商店街の市民の意欲が大きい。
計画終了後の状 況(事業効果)	交流人口も増え、賑わいが創出された。
蔵の辻・商店街 活性化事業の今 後について	地域住民の参画推進や、周辺商店街の活性化につながる取組みを検討し ながら今後も継続。

・まちなか観光PR・観光客誘致事業(越前市、タケフ都市開発(株)、武生観光協会)

支援措置名及び 支援期間	社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画)・地域活性化経済危機対 策臨時交付金 平成20年度から平成24年度
事業開始・完了 時期	平成19年度から平成24年度

事業概要	旅行エージェントに対するツアー企画を誘致する。
目標値・最新値	目標値 事業 から dechana交流歩行者 200 人増(調査地点3箇所) 最新値 事業 から dechana観光歩行者 292 人増
達成状況	達成
達成した(出来なかった)理由	観光PRのパンフ、DVD作成や、案内サインの整備など誘客に努めたことが大きい。
計画終了後の状況(事業効果)	H22をピークに減少傾向にあるが、引き続き旅行エージェントに対する働きかけを行う。
dechana観光PR・観光客誘致事業の今後について	武生製麺、めがねの里など独自ツアー誘致をしている会社と今後の誘致の課題を検討しながら継続。

・武生公会堂記念館文化力向上事業(越前市)

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画) 平成21年度から平成24年度
事業開始・完了時期	平成18年度から平成24年度
事業概要	博物館機能の充実と特別展、企画展、館蔵品展の開催。教育普及事業「えちぜん学・集・楽」の開催。
目標値・最新値	目標値 事業 から dechana交流歩行者 200 人増(調査地点箇所) 最新値 事業 から dechana観光歩行者 292 人増
達成状況	達成
達成した(できなかった)理由	年間を通じ、特別展、企画展、教育普及事業(講演会や体験学習講座)を多く開催した。
計画終了後の状況(事業効果)	来館者が増加し、それに伴い中心市街地への来訪者が増加した。
武生公会堂記念館文化力向上事業の今後について	特別展並びに企画展を充実させ、今後においても来館者増をめざし、継続。

・dechana観光・賑わい創出事業(越前市)

支援措置名及び支援期間	福井県ふるさと雇用再生特別基金事業 平成21年度から平成23年度
事業開始・完了時期	平成21年度から平成23年度
事業概要	dechana観光案内所「dechanaプラザ」を拠点に、dechana観光情報や蔵の辻界隈のイベント情報を観光客に提供する。
目標値・最新値	目標値 事業 から dechana交流歩行者 200 人増(調査地点3箇所) 最新値 事業 から dechana観光歩行者 292 人増

達成状況	達成
達成した（できなかった）理由	まちなかに訪れる観光客に対するまちなか観光の案内機能の充実や、まちなかの各種イベント情報の発信の充実を図ったため。
計画終了後の状況（事業効果）	中心市街地の魅力を高めまちなかの賑わいを創出した。
まちなか観光・賑わい創出事業の今後について	「まちなかプラザ」と駅前の「観光・匠の技案内所」を観光案内の拠点とし、観光協会が情報発信を行い、継続して実施。

・まちなか事業・地域助け合いビジネス開業支援事業（越前市）

支援措置名及び支援期間	越前市補助金 平成19年度から平成24年度
事業開始・完了時期	平成18年度から平成24年度
事業概要	新規事業主に対し、家賃、設備等の補助を行い、まちなかでの開業支援を行う。
目標値・最新値	目標値 事業 から だまちなか交流歩行者 200 人増(調査地点3箇所) 最新値 事業 から だまちなか観光歩行者 292 人増
達成状況	達成
達成した（出来なかった）理由	まちなかに新しい店舗が増えたことによる。
計画終了後の状況（事業効果）	開業に掛かる経費を補助することによって、新しい店舗増加に寄与した。
まちなか事業・地域助け合いビジネス開業支援事業の今後について	まちなかへの新たな店舗開設を、引き続き支援するため、継続。

・おもてなしの店等推進事業（越前市）

支援措置名及び支援期間	越前市補助金、福井県市町振興プロジェクト補助金 平成20年度から平成25年度
事業開始・完了時期	平成20年度から平成25年度
事業概要	店舗の内外装改造やトイレ、休憩所設置工事に対する費用補助により、魅力ある個店づくりを支援する。
目標値・最新値	目標値 事業 から だまちなか交流歩行者 200 人増(調査地点3箇所) 最新値 事業 から だまちなか観光歩行者 292 人増
達成状況	達成
達成した（出来なかった）理由	まちなか店舗の利便性が上がり、魅力が向上したことによる。

計画終了後の状況（事業効果）	店舗の内外装改造やトイレ、休憩所設置工事の費用補助を行うことにより、まちなか店舗の魅力向上に寄与した。
おもてなしの店等推進事業の今後について	まちなか店舗の魅力向上を引き続き支援する為、継続。

・元気な事業者グループ支援事業（越前市）

支援措置名及び支援期間	越前市補助金 平成22年度から平成24年度
事業開始・完了時期	平成22年度から平成24年度
事業概要	地域資源を活かした商業活性化チャレンジ事業を支援する。
目標値・最新値	目標値 事業 から だまちなか交流歩行者 200 人増(調査地点3箇所) 最新値 事業 から だまちなか観光歩行者 292 人増
達成状況	達成
達成した（出来なかった）理由	商業活性化チャレンジ事業を支援したことで、地域商業が活性化したことによる。
計画終了後の状況（事業効果）	やる気のある事業者グループの行う商業活性化チャレンジ事業を支援することにより、地域商業の活性化に寄与した。
元気な事業者グループ支援事業の今後について	地域資源を活かした商業活性化チャレンジ事業を引き続き支援する為、継続。

・まちなか賑わい創出支援事業（越前市）

支援措置名及び支援期間	越前市補助金 平成23年度から平成25年度
事業開始・完了時期	平成23年度から平成25年度
事業概要	蔵の辻での賑わい創出イベント実施を支援する。
目標値・最新値	目標値 事業 から だまちなか交流歩行者 200 人増(調査地点3箇所) 最新値 事業 から だまちなか観光歩行者 292 人増
達成状況	達成
達成した（出来なかった）理由	多様な主体の活動と交流が行われたため。
計画終了後の状況（事業効果）	交流人口も増え、賑わいが創出された。
まちなか賑わい創出支援事業の今後について	地域住民の参画推進や、周辺商店街の活性化につながる取組みを検討しながら今後も継続。

3.今後について

計画された事業の実施により、交流人口の増加が図られ、目標を大きく上回ることができた。今後は第2期計画の中で、休日歩行者数を29年度までに1割増加、店舗開業支援認定件数20軒増の数値目標を掲げて、中心市街地を訪れる子育て世代、団塊・高齢世代の満足度を高め、地域住民の参画を推進した取り組みを行っていく。

